

地域循環型ミライ研究所

アニュアルレポート 2026



MESSAGE

所長メッセージ

地域循環型ミライ研究所がめざす社会像

地域循環型ミライ研究所の活動に関心をお寄せいただき、ありがとうございます。そして2023年の設立以来、私たちの歩みを応援してくださるすべての皆さまに、心から感謝申し上げます。

日本は、今、少子高齢化と人口減少、気候変動と災害リスク、エネルギーの枯渇や社会の分断など、深刻で複雑な社会的課題に直面しています。しかし、一步、地域に足を運べば、その地域ごとの素晴らしい魅力、たとえば、地域固有の文化、食、自然、歴史や、その地域に根差した人々の暮らしや生き方に出会うことができます。ミライ研は、それらの“かけがえのない社会的価値”を、「ミライの子供たち、その次の世代に、いかに残していくのか」という問いに、真剣に向き合い続けています。

その鍵となるのは、私たちが掲げる地方創生のモデル「ローカル・ループ」です。人とICTの力で、地域の社会的価値を顕在化させ、地域内外の人々との共創によって経済的価値を生み出し、それを再び社会的価値の発見や活用につなげる。こうした地域で生まれる価値の循環が、地域の持続可能性と人々のウェルビーイングを高めると信じています。

本レポートでは、このモデルを具体化するための13のプロジェクトを三つの軸でご紹介します。一つ目は、人のつながりを生み出す新しいコミュニティ形成の試み、二つ目は、地域の魅力を起点にした協働や愛着醸成の取り組み、三つ目は、持続化に向けた共創の仕組みづくりに焦点を当てます。いずれも、社会的価値を活かしながら、地域の皆さまとともにミライを描く取り組みであり、NTT東日本のパーパス「地域循環型社会の共創」へのチャレンジでもあります。

中でも、2025年2月、地域で生まれるアイデアや人々の想いをつなげるプラットフォームとして「地域とミライをつくるゼミ〜Palette(パレット)」を立ち上げました。ミライ研の活動に少しでも共感してくださる方、30年先、100年先のサステナブルな地域社会づくりに興味がある方がいらっしゃれば、ぜひ、ご参加ください。

最後に、本レポートが、皆さまにとって、地域の新たな可能性やミライの在り方について考えるヒントになれば幸いです。地域に生きる皆さまへの感謝を込めて。

NTT東日本 地域循環型ミライ研究所
所長 猪狩典子



ACTIVITIES

地域循環型ミライ研究所の活動概要

人々のウェルビーイングを中心に据えた持続可能な地域社会の実現に向けて、社会的価値と経済的価値の循環モデル“ローカル・ループ∞”をデザインします。

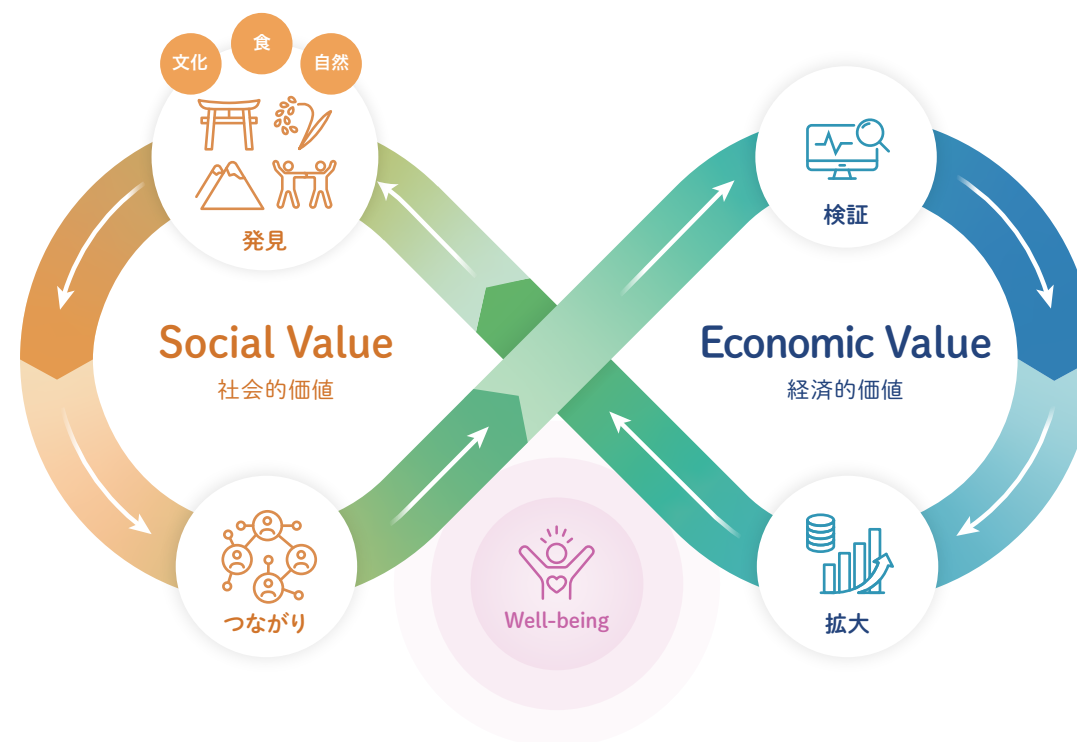
地域資源を活かした
社会的価値の発見

人々のつながりが生む
経済的価値の検証

創出した社会的価値と
人々をつなげる

社会実装による
経済的価値の拡大

ローカル・ループ∞



CONTENTS

目次

THEME

01 地域とのつながり方・新しいコミュニティのつくり方

福島県 浪江町



P5

和太鼓文化でつながる
地域コミュニティの形成

新潟県 南魚沼市



P6

テックを活用した
関係人口創出×地域を担う
人材の育成

奈良県 奈良市



P6

Co-Living体験による
コミュニティの立ち上がり方

THEME

02 地域の魅力を起点とした「地域への想い」の育み方

北海道 厚岸町



P7

地域の記憶を掘り起こす
産官学民連携による
ローカルディグ

新潟県 小千谷市



P8

故郷の音を届ける
フィールドレコーディング

新潟県 佐渡市



P8

研究者、アーティストと連携した
音文化の研究・発信

新潟県 十日町市



P9

雪からはじめる 広いエリアで
共通する地域資源に着目した
地域活性化モデルの探究

佐賀県 唐津市



P10

中山間地域の
“食文化”を起点とした
地域愛着の醸成

福島県 奥会津



P10

「地域の文化・暮らし」から描く
地域の未来

THEME

03 持続化に向けた共創の仕組みづくり

Palette



P11

地域を考える
ネットワーキングの場
“Palette”

地域エバンジェリスト



P11

企業と地域の
新たなつながり方
「地域エバンジェリスト」

石川県 能登



P12

災害復興地での
企業研修による
地域共創マインドの醸成

神奈川県 横須賀市



P12

地域と企業の
共創モデルの検証
「海とミライのがっこう」

地域とのつながり方・新しいコミュニティの作り方

人口減少や災害リスクなど、さまざまな社会課題に対応し、これからも持続的で心豊かな地域を実現していく主役は地域に関わる「人」そのものです。地域が持つ多様な魅力に惹きつけられた人々が距離や時間の制約を超えて、集い、交流し、楽しみ、やがて新しい価値の創造に向けて協働することのできる新しいコミュニティの創出に向けて、さまざまな取り組みモデルの実証が始まっています。

和太鼓文化でつながる 地域コミュニティの形成



防災・復興まちづくりに取り組む福島県浪江町の太鼓文化に着目。半年間にわたって和太鼓演奏を軸に住民の方々と交流を深め、関係人口の創出や地域を越えた広域的なコミュニティの形成をめざします。全5回の現地訪問では和太鼓練習や地域交流・学びを通して住民の方々とつながりを育み、文化を媒介とした地域コミュニティの在り方を探ります。



多様な思いや視点が交わるコミュニティ
弊社の社員有志と社外企業社員ら14名が参加。郷土愛やまちづくりへの関心など、多様な視点が交わり地域や世代を超えるコミュニティの形成をめざします。



文化体験が生む一体感と信頼関係
和太鼓チーム「太鼓浪音」を発足し地域づくりに取り組む「いのちとぶんか社」の協力のもと練習を重ねます。呼吸や動きを合わせる共同作業により、メンバー間の一体感の醸成や信頼関係を育みます。



対話と学びで未来を描く
住民との対話や地域散策を通じ、まちの文化や歴史を学び防災・復興まちづくりに取り組む浪江町の未来をともに考えます。離れていても関わり続ける関係人口の形を探り、共助の土台となるつながりのヒントを見つけます。

Special Thanks ● 株式会社いのちとぶんか社 葛西 啓之、葛西 優香 ● 太鼓チーム「太鼓浪音」の皆さま

テックを活用した 関係人口創出×地域を担う人材の育成



一般社団法人 愛・南魚沼みらい塾と連携し、市外のさまざまな地域から参加する大学生が南魚沼市で考えるアイデアにテックを活用して、地域内外の人々を巻き込むことで、ライトな形からの関係人口の創出と地域を担う学生の育成をめざしました。



地域ファシリテーター育成プログラム YouKeyCollege
参加する大学生は、国際大学GLOCOM 伊藤 将人さん(ミライ研 客員研究員)から地域課題への向き合い方を学び、地域のためのプロジェクトを考え実行しました。



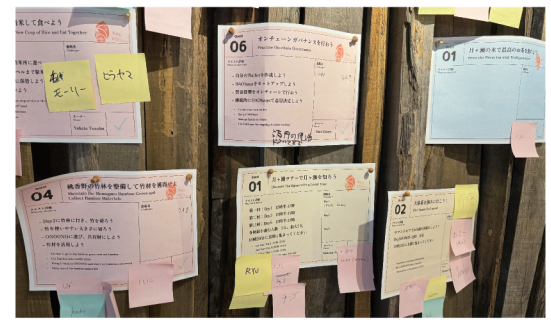
PoliPoliGov により地域内外の意見を募集
学生のアイデアに対し、共創プラットフォームPoliPoliGovで意見を募集しました。投稿者がより深く南魚沼の関係人口となる要素を明らかにすべく、アンケートを実施しています。

Special Thanks ● 一般社団法人 愛・南魚沼みらい塾 倉田 智浩、佐藤 隼音 ● 株式会社PoliPoli 山下 花奈 ● 国際大学GLOCOM 伊藤 将人(ミライ研 客員研究員) ● 南魚沼市 U&Iときめき課 岩井 勉

Co-Living 体験による コミュニティの立ち上がり方



一般社団法人 LocalCoop 大和高原と連携し、国内外の最前線で活躍するクリエイターやローカルイノベーターなどが、シビックテックなどを活用しながら7日間の共創生活を送ることによる地域の新しい共創の在り方について調査研究を行いました。



月ヶ瀬における Co-Living 体験 (KuuVillage)
7日間のプログラムで参加者はクエストの作成や参加を通じ共創活動を展開。ブロックチェーン上の独自通貨「KuuCoin」により報酬の支払いや物品購入などが行われました。



地域住民との交流を実施
地元の方々を招いた70名規模のBBQやキャンプファイヤーを開催。住民とともに火を囲み舞い踊りながら、村で生まれる新しい活動や、それを受け入れる住民の想いを伺いました。

Special Thanks ● 一般社団法人LocalCoop 大和高原 本間 英規 ● 一般社団法人コード・フォー・ジャパン 関 治之、川邊 悠紀 ● 株式会社Paramita 林 篤史 ● 旧月ヶ瀬村の皆さま

地域の魅力を起点とした 「地域への想い」の育み方

地域が持つ文化、食、自然などの社会的価値は、より多くの人々と結び付くことで、新しい価値が生み出されます。ICT 技術を活用し、音、映像、VR などを組み合わせた新たな体験を創出し、広く社会に発信する。それを通して、地域内外の人々がつながり、交流の中で価値が育まれる。——そんな循環のモデルづくりに挑戦しています。

地域の記憶を掘り起こす 産官学民連携によるローカルディグ



北海道厚岸町は道東文化発祥の地で、牡蠣やアサリを中心に漁業が盛んな地域です。小樽商科大学・九州大学の研究者や町役場の学芸員と連携し、町の歴史や記憶を掘り起こしデジタル技術で可視化する取り組みを進めています。厚岸湾の入り口に浮かぶ無人島「大黒島」の島全体を3Dモデル化するプロジェクトや、住民の声をデジタルマップに反映するワークショップなどを通じ、地域愛の醸成効果を検証しています。



住民とのローカルディグワークショップ

7月と9月に厚岸町で、住民の皆さまと厚岸町の魅力を掘り下げるワークショップを開催しました。住民の方だからこそ知っている地域の魅力の再発見と共有を図りました。



厚岸町の魅力発見ワークショップ

ワークショップで住民の皆さまと掘り起こした地域の魅力をデジタルマップで可視化し、町内外への発信をめざします。



大黒島のドローン撮影風景

NTT-ME と連携し、厚岸湾の入り口に浮かぶ無人島、大黒島をドローンで撮影しました。現在は海鳥の保護区となっており、住民も許可なく上陸はできない大黒島を、取得したデータをもとに、精細な3Dモデルで再現しました。



大黒島の特効艇秘匿壕跡地の空間3D

360度撮影可能な3Dカメラで、大黒島に残存する戦争遺跡の特効艇秘匿壕跡地を撮影しました。風化などの自然要因で将来的に失われる可能性がある戦跡を、保存・継承する取り組みの一環です。

Special Thanks

- 小樽商科大学 教授・副学長 江頭進 ●厚岸町海事記念館/館長 菅原卓己、文化財係 学芸員 小田島賢 ●厚岸町の皆さま
- 九州大学 共創学部/教授・学部長 荒谷 邦雄、教授・副学部長 鬼丸 武士、教授 田尻 義夫 ●柳沢 英輔(ミライ研 客員研究員)

故郷の音を届ける フィールドレコーディング



地域の中にある音と人の記憶は、深く結び付いているのではないかと仮説をもとに、新潟県小千谷市にて住民参加型のフィールドレコーディングを行いました。集めた音を発信することで、地元を離れて暮らす方々に故郷を思い出すきっかけを届けます。



フィールドレコーディングのワークショップ

9月に開催したワークショップでは、参加者が録音した音を共有し、それにまつわる思い出や風景を語り合いました。音を通じて地域の魅力や個人の記憶が浮かび上がる時間となりました。



小千谷の音が聞こえてくる公衆電話

集められた音源は、NTT 社会情報研究所が制作した、受話器から小千谷の音が聞こえてくる公衆電話に利用され、NTT R&D フォーラムで展示されました。

Special Thanks

- 株式会社あわせ 谷口 諒、阪井 莉恵 ●柳沢 英輔(ミライ研 客員研究員) ●NTT社会情報研究所
- 小千谷市にぎわい交流課 ひと・まち・文化共創拠点 文化財係 主査(学芸員) 白井 雅明 ●小千谷市の皆さま

研究者、アーティストと連携した 音文化の研究・発信



地域の魅力を再発見し発信する方法として“音”に着目し、音文化研究者の柳沢氏と佐渡で共同研究を実施しています。フィールドレコーディングを通じて地域の資源・魅力を読み直し、魅力発信のモデル創出を図ります。



太鼓芸能集団「鼓童」との連携

佐渡に本拠を持つ世界的太鼓集団の鼓童と連携し、鼓童メンバーの演奏と自然音のコラボレーションをレコーディングしました。今後、レコーディングした音の発信やワークショップの開催などを実施予定です。



佐渡のクリエイターなどへインタビューを実施

佐渡在住の真言宗僧侶・写真家の梶井 照陰氏にご協力いただき、太鼓×念仏の録音を行いました。その他、佐渡のアーティストや社会起業家への音に関するインタビューおよびそのレコーディングなどを行いました。

Special Thanks

- 音文化研究者 柳沢 英輔(ミライ研 客員研究員) ●太鼓芸能集団 鼓童 ●佐渡市 ●佐渡島の皆さま

雪からはじめる 広いエリアで共通する地域資源に着目した 地域活性化モデルの探究



地域固有の資源に特化した取り組みは、他地域への展開が難しいという課題があります。そこで多地域に展開できるモデル創出をめざして、日本の広いエリアに共通する資源である「雪」に着目しました。除雪や移動の不便さなど負の側面が強調されがちな雪ですが、暮らしの知恵やウェルビーイングの源泉ともなります。日本有数の豪雪地帯である新潟県十日町市で、住民 100 人のインタビューを実施し「雪と地域の関係性」を紐解き、価値の可視化を試みます。



雪とともに暮らす意味を探る

雪を「負担」ではなく文化や暮らしを“豊かにする資源”として捉え、地域に息づく知恵や幸福感を探ります。文化人類学やウェルビーイング研究に携わるシンクタンクや大学と協働し、雪とともに生きる価値を多角的に探究します。



100 人の声からみえる雪の価値

地域住民や関係者へのインタビューを通じ、雪がもたらす喜びや誇り・愛着、暮らしへの影響を収集。克雪・利雪・親雪など人間中心の価値の切り取り方だけでなく、自然への畏怖の念・諦めなども含めてリアルな声から雪文化の本質と新しいウェルビーイングの形を導き出します。



雪からはじまる、広がるまちづくり

未来につなぐ価値として雪の価値を体系化した「雪の価値マップ」と生活知や体験を蓄積する「経験ライブラリー」を構築。これらを共有し地域が互いに学び合い愛着を持ちながらつながるきっかけとすることで、雪を媒介とした広域的な地域づくりをめざします。

Special Thanks ●株式会社日本総合研究所 ●合同会社メッシュワーク ●北川 真紀 ●井比 晃 ●星 裕方 ●十日町市の皆さま



中山間地域の“食文化”を起点とした 地域愛着の醸成



佐賀県唐津市をフィールドに、郷土料理の調理・共食体験を通じて地域住民の地域愛着が醸成されるのか、地域のために何かしたいという主体的な地域への関与意欲が育まれるのかを検証しました。



これから調理する鯨を手にとる参加者

年齢も立場も異なる地域内外の参加者が協働で調理を実施。調理を進めるうちに自然と会話が広がり、会場は笑顔があふれる和やかな雰囲気に包まれました。



みんなでいただきます

郷土料理を全員で調理し交流。地域の歴史への学びを深め食によるつながりを創出することで、郷土への関心・誇り・つながり意識の向上、地域への関与意欲の喚起につなげました。

Special Thanks ●認定NPO法人 サービスグラント ●東洋大学 准教授 露久保 美夏(ミライ研 客員研究員)
●三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社 ●きゅうらぎみんらの食堂 彩り ●唐津市の皆さま

「地域の文化・暮らし」から描く 地域の未来



奥会津の持続的な発展をめざし、NTT 東日本福島支店とミライ研 客員研究員の山本氏(株式会社あっぱれ)を中心に奥会津振興センターの方針策定を支援。ミライ研は研究観点で住民ヒアリングや文化起点の施策立案に参画。



暮らしの声から未来を描く

奥会津の住民や関係者へのインタビューを通じて、これまでの歩みや地域の課題を振り返り、次の地域振興計画の方向性をともに考えていきます。



“奥会津ファン”を育む計画

奥会津らしい文化や暮らしの魅力を起点に、地域内外のつながりを育むことをめざす地域振興計画を策定。文化をつなぎ未来へと活かす人づくりにも取り組みます。

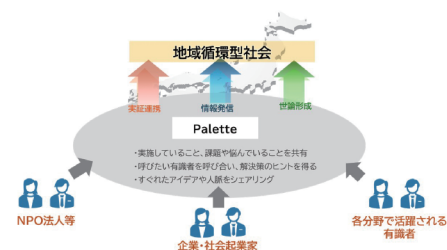
Special Thanks ●株式会社あっぱれ 山本 陽平(ミライ研 客員研究員)、平山 遥 ●奥会津振興センター ●奥会津の皆さま

持続化に向けた 共創の仕組みづくり

ローカル・ループの取り組みが今後も広がり、持続化するため、企業や個人が地域とつながるための場づくり、自発的に地域活動を行う社員の支援など、地域とつながり協働するための多様な仕組みづくりを始めています。

地域を考えるネットワーキングの場“Palette”

国際大学 GLOCOM と連携し、地域活性化や循環社会の共創に向けて志をともにする企業や団体・個人との利害を超えたネットワーキングの場、悩みや知恵の共有の“ゼミ”として、2025年2月から Palette を開始しました。



Palette のコンセプト

Palette は2カ月に1回程度の頻度で開催しており、将来的には地域創生に係る連携や投資などが自発的に生まれる共創プラットフォームとなることをめざします。



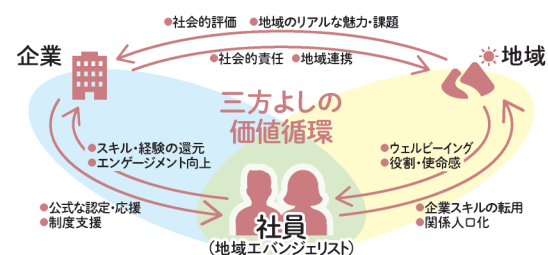
議論には多くの企業様が参加

毎回「関係人口」「教育」「シビックテック」などをテーマに地域課題を議論。毎回、約20社が参加し、視聴申し込みが100人に達するプラットフォームに成長しています。

Special Thanks ●国際大学GLOCOM ●Paletteにご参加いただいた皆さま

企業と地域の新たなつながり方「地域エバンジェリスト」

地域活動に情熱を注ぐ社員を「地域エバンジェリスト」として認定、活動の取材・発信を通じて得た、彼らのウェルビーイングやワークエンゲージメントが高い、という仮説の検証に向けて調査研究を進めます。



地域活動がもたらす三方よしの価値

組織や企業の枠を超えて地域活動に取り組む地域エバンジェリスト社員を応援すべく、一人一人の地域エバの活動に密着し取材・発信を重ねる中で、自身のウェルビーイングを実現しながら、本業にもポジティブな影響をもたらす地域エバ像が浮かび上がってきました。本年の調査研究では、地域活動がもたらす社員・地域・企業への三方よしの効果を量的・質的側面から追跡しています。

Special Thanks ●国際大学GLOCOM 伊藤 将人(ミライ研 客員研究員) ●久保 綾(ミライ研 客員研究員)

災害復興地での企業研修による 地域共創マインドの醸成



震災復興とミライに向けたまちづくりを体感する研修参加による地域共創マインドの醸成を、「地域課題の自分ごと化」「地域関与意欲」といった参加者の意識変容に着目して調査しています。企業が地域へ関わるモデルとして関係人口観点からも検証します。(研修企画・協力：NTT東日本-関信越)



自然と向き合う里山再生体験

2024年の震災・水害の爪痕が残る中、自然と“向き合う”。「ケロン村」では自然の力を活かし土砂流出を防ぐ丸太筋工など、災害で弱った里山の再生を促す活動を行いました。



復興現場の最前線で地域共創を学ぶ

「前に進むしかない」「やると決めたらやるしかない」。講話やワークを通じ、行政、企業、中間支援団体、起業家・協力隊などの多様な視点から復旧ではない“復興”の在り方を学びました。

Special Thanks ●株式会社JAL航空みらいラボ ●株式会社ウニベル ●NTT西日本株式会社 北陸支店

地域と企業の共創モデルの検証「海とミライのがっこう」



横須賀市・走水海岸を舞台に、体験を通じて想像力を育む場として始動した「海とミライのがっこう」には、NTT東日本からの越境人材が運営に携わっています。この取り組みに伴走し、検証することで、企業と地域の共創の在り方を研究しています。



海とミライのがっこうの活動を紹介する特別番組

テレビ神奈川の特別番組として「まちの環境が学びの場！走水発・海とミライのがっこう」が放送されました。現在はYouTubeでも視聴可能です。



地域のミライを考える場の形成

閉校した走水小学校の利活用を検討する「走水みらいミーティング」も始動しました。住民とともに走水の未来を描く対話の場に参加しながら、越境人材による共創活動の広がりの可能性を検証しています。

Special Thanks ●かねよ食堂 金澤 等 ●株式会社アズバリュール 藤澤 寛子
●三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社 ●走水の皆さま

海とミライ公式note



MEMBERS

ミライ研メンバー紹介

研究員



所長
猪狩 典子
Noriko Igari



副所長
川嶋 克之
Katsuyuki Kawashima



藤田 建次
Kenji Fujita



高山 麻由美
Mayumi Takayama



中山 雄太
Yuuta Nakayama



阿部 寛之
Hiroyuki Abe



宇野 咲耶子
Sayako Uno



田中 健人
Kento Tanaka



原田 拓哉
Takuya Harada



谷口 翔太郎
Shotaro Taniguchi



水谷 考嬉
Koki Mizutani



本間 愛佳
Aika Honma



小林 華子
Hanako Kobayashi



研究員のレポートはこちら

客員研究員



伊藤 将人 / Masato Ito
国際大学グローバル・コミュニケーション・センター (GLOCOM) 研究員



逢坂 裕紀子 / Yukiko Osaka
国際大学グローバル・コミュニケーション・センター (GLOCOM) 研究員



菊地 映輝 / Eiki Kikuchi
メタ観光推進機構 理事



久保 綾 / Aya Kubosumi
Freelance UX & Design Research Specialist



庄司 昌彦 / Masahiko Shoji
武蔵大学 社会学部メディア社会学科教授
武蔵学園 データサイエンス研究所 副所長



露久保 美夏 / Mika Tsuyukubo
東洋大学 食環境科学部 食環境科学科 准教授



中谷 桃子 / Momoko Nakatani
東京科学大学 情報通信系 エンジニアリングデザインコース 准教授



野村 恭彦 / Takahiko Nomura
Slow Innovation株式会社 代表取締役
金沢工業大学 虎ノ門大学院 教授



柳沢 英輔 / Eisuke Yanagisawa
日本学術振興会 特別研究員 RPD (国立民族学博物館 外来研究員)



山本 陽平 / Yohei Yamamoto
株式会社あっぱれ 代表取締役

※五十音順

地域循環型社会を創る、多彩な知見と情熱が集結したメンバーたち

兼務・ダブルワーク

兼務

武内 陶子 / Toko Takeuchi
徳田 紗耶果 / Sayaka Tokuda
藤矢 晴輝 / Haruki Fujiya

ダブルワーク

岩佐 果琳 / Karin Iwasa
岡 拓海 / Takumi Oka
佐藤 菜々香 / Nanaka Satou
武澤 秀一 / Shuichi Takezawa
長島 愛莉 / Airi Nagashima
望月 裕香 / Yuka Mochizuki

遠藤 弘毅 / Kouki Endou
黒羽 道明 / Michiaki Kuroba
須坂 喜江 / Yoshie Suzaka
武南 美弥子 / Miyako Takenami
平田 淳子 / Junko Hirata
柳 千江 / Chie Yanagi

大和田 一樹 / Kazuki Oowada
佐藤 嗣恩 / Tsugunori Sato
高橋 美月 / Mizuki Takahashi
千葉 一深 / Hitomi Chiba
古澤 茂 / Shigeru Furusawa
横山 知里 / Chisato Yokoyama

※五十音順

主な外部発信・登壇



レポート・論文発表

- 『ワデュケーションによるウェルビーイングと地域との関係性の変容 ―秋田県鹿角市の事例から―』
阿部 寛之・水谷 考嬉・小林 華子・伊藤 将人 (客員研究員) 他 (2025年 12月 ウェルビーイング学会)
- 『「ワデュケーション」による関係人口創出効果の研究 ―秋田県鹿角市におけるフィールドスタディー―』
阿部 寛之・水谷 考嬉 (2025年 9月 計画行政学会)
- 『デジタル田園都市国家構想と地方創生総合戦略』
猪狩 典子・藤田 建次・谷口 翔太郎 (2025年 6月 計画行政学会)

他多数

登壇実績

- 『「Yorai 二地域居住推進フォーラム」基調講演』
パネルディスカッション 猪狩 典子 (2025年 11月 佐渡二地域居住推進コンソーシアム)
- 『東京大学 CTDI シンポジウム 2025「シビックテックの共創基盤 ―プロトタイプングを通じた地域展開と人材育成―』
講演 宇野 咲耶子・谷口 翔太郎 (2025年 11月 東京大学デジタル空間社会連携研究機構 シビックテック・デザイン学創成寄付研究部門)
- 『大企業による農山漁村現場への人材派遣等の取組促進に係る検討会』
検討委員 (2025年 7月～ 農林水産省)

他多数

メディア掲載

- 『浪江、和太鼓通じ交流』『NTT 社員和太鼓で交流 浪江の関係人口を』
宇野 咲耶子・田中 健人 (2025年 10月 福島民友、福島民報)
- 『NTT、あえて「テレワーク標準」貫く 出社回帰より地域浸透で成長』
阿部 寛之 (2025年 9月 日本経済新聞)
- 『TV 番組「まちの環境が学びの場! 走水発・海とミライのがっこう」』
原田 拓哉・本間 愛佳 (2025年 6月 テレビ神奈川)

他多数